





キルギス国旗

ふらくむ通信

**Project on Improvement of Human Resources in Food Laboratories for
Improvement of Quality of Milk and Dairy Products(FLAQUUM)**
キルギス共和国乳品質向上のための食品検査人材育成プロジェクト

第9号 2024年1月

【プロジェクトのカウンターパート（技術協力対象機関）】

省名	部署/機関名（略称）	機能（役割）
経済商務省	技術規則・度量衡部	（プロジェクト実施責任）
	度量衡センター試験認証センター 食品検査所（CSM）	食品検査
保健省	疾病予防衛生疫学監督部(DPSSSES)	食品検査、食品衛生監査
農業省	獣医衛生検査院（VS） 獣医診断検査センター（CVDE）	生乳・乳製品検査、獣医衛生監査

巻頭言

プロジェクト開始直後の2019年5月にベースライン調査を実施して、キルギスの酪農産業の現状、海外市場におけるキルギス製品の位置づけ、行政機関の検査・監査能力などを把握しました。今回、業務終了にあたりプロジェクトの業務と並行してエンドライン調査を行い、プロジェクトの実施前後の酪農セクター及び実施機関における状況や能力の変化を比較しました。その調査結果から、プロジェクトが少なからずキルギスの酪農産業振興へのインパクトを与えつつあることが分かりました。

- ・ キルギスにおける生乳や乳製品生産量の増加に伴い、乳製品製造施設の国家登録企業数とEAEU加盟国向け輸出量も増加している。
- ・ プロジェクト対象の主要検査所における人員の能力や信頼性が向上し、EAEUの規格要件を満たす食品の検査が可能となり、自国内での乳製品安全性確保に貢献している。

キルギスでの現地業務は2023年12月で終了ですが、プロジェクトは期間中、キルギス関係機関と共に実施された活動や成果の振り返りを行いました。カウンターパートはプロジェクトから得られた知識や技術を各機関の改善に継続的に生かすための活動を着実に進めています。

以下に前号8号以降の主なプロジェクト活動をご紹介します。

1. 最近の主な活動トピック

1.1 地方における生乳・乳製品の衛生管理及び研修ニーズについての調査

イシクル州（ジェティオグス地区）における地方の獣医衛生監査員の監査能力の向上研修や当該地域における生乳や乳製品の衛生管理の現状と研修ニーズについての調査が実施されました。今までは、プロジェクトが作成したHACCP研修プログラムを基に中央政府の監査員（C/Ps）への研修を行い、プロジェクト期間中に開発した衛生管理チェックシートなどを用いて地方監査員への研修をTOT（トレーナー研修）として、HACCP7原則の導入や集乳場の監査指導なども実施してきました。今回は、C/Ps自らが地方監査員研修の計画を立案・実施して、プロジェクトはオブザーバーとして参加しました。C/Psはプロジェクトで習得した研修プログラムを自分のものとしており、プロジェクト終了後も自立的に地方の監査員や農家・乳業会社などへの研修や監査を実施できるようになると思われます。



本研修に参加した地方監査員及び関係者



C/Ps による地方監査員事務所での座学研修



集乳場でC/Ps が地方監査員に監査研修を実施



乳牛の飼養管理状況についてC/Ps が監査指導

1.2 第2回本邦技術研修（2023年10月）

2019年に新型コロナ感染拡大のため専門家の渡航ができなくなり、本邦研修も延期されていましたが、本年2月に第1回が実施され、今回は別のC/Ps 9名が第2回の研修を受けることになりました。研修コースは、東京都による食品安全行政への取組みなどの講義や食

品検査を行っている検査所での食品モニタリング活動やその結果の活用、日本の乳製品加工工場の実際の製造現場での衛生管理、日本での HACCP 導入における保健所の活動、HACCP による衛生管理を幅広い層に普及する研修方法など、日本からの専門家派遣による技術移転に加えて、日本の行政や民間における現場の活動を見学することで、日本の文化への理解を含めて研修の成果を更に高めることができましたと思います。

研修員から研修の成果と今後キルギスで取り組むべきことなどが整理され、JICA にも報告されました。今後の食品安全行政システム改善のために以下の項目が検討されています。

- ・ 食品安全のためのキルギスでの HACCP 導入なども含めた法整備強化
- ・ 食品表示のモニタリングやトレーサビリティシステムの確立
- ・ 食品検査や監査技術者及び民間企業への継続的な研修システムの構築



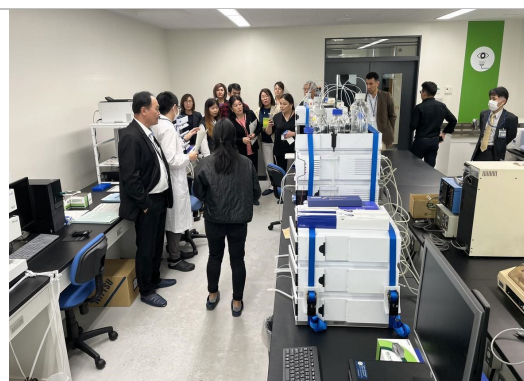
修了証書授与式 (10/19, JICA東京)



東京都保健医療局から食品安全行政の聞き取り



2週目のラボグループへの検査実習
(新日本検定協会)



横浜市衛生研究所（分析機器室）の視察

1.3 第7回 JCC の開催

最後の JCC 会議のため C/P のラボと HACCP グループの代表がプロジェクト全体の活動と成果を発表しました。プロジェクトからは、成果指標の達成状況とプロジェクトの成果を生かした今後の活動への提案が行われました。

プロジェクトの主な成果・目標とその指標達成状況は下表のとおり。

プロジェクトの成果・目標	指標の達成状況
食品の安全性検査方法の確立	ラボでの信頼性が検証された方法の導入により、輸入国からの要求事項への対応が可能な検査項目も増加している。
監査チェックシート改善	既存の工場監査チェックシートが Codex 基準に基づいて改善された
ラボ技術者の能力向上	妥当性確認の理解と実践研修を受け、その手法を実施できるようになる
HACCP の TOT 研修実施	HACCP 監査のトレーナーが育成され、現場で実践研修を実施する

プロジェクト終了後の C/Ps からの提案は、本プロジェクトの活動と成果をベースにして C/P としては、乳製品など食品の更なる輸出拡大のために地方検査所や監査事務所の能力向上と地方における衛生管理システムの改善が提案されました。



キルギス側 JCC メンバー

日本側 JCC メンバー

経済商務省副大臣と JICA キルギス事務所長

経済商務省からの（協力を感謝する）メダル授与

編集後記

2019 年 4 月に開始された当プロジェクトも、2023 年 12 月をもって終了いたしました。この間、新型コロナウイルス感染症による渡航制限が発生し、当初、計画されていた専門家派遣や本邦研修活動が延期される事態もありました。プロジェクトは、オンライン研修による技術移転を試みるなど、感染症による事業の遅延を極力回避できるよう工夫を凝らして、ラボデータの取扱いのための統計処理技術や工場での監査業務実施準備のための HACCP 7

原則のインターネットによる研修を実施し、リモート会議などによる質疑応答なども実施しました。また、専門家の渡航再開後も新規に導入された分析機器を使用してラボ技術者への対面での指導や乳製品工場現場での HACCP 監査の現地指導なども行いました。これらの努力が実を結び、その後のプロジェクト活動はほぼ順調に進められました。これは、カウンターパート機関はじめ、関係機関の真摯な対応の賜物と心より御礼申し上げます。

ふらくむ通信は、今号をもって終了いたしますが、当プロジェクトの日本側関係者、キルギス側関係者双方の友情と交流は途絶えるものではありません。今後も、両国の更なる連携活動が図られることを期待して本号の了とさせていただきます。ご愛読、ありがとうございました。

(了)